

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4075800336		
法人名	サンコーケアライフ 株式会社		
事業所名	グループホーム えださか (1階・2階)		
所在地	〒820-0203 福岡県嘉麻市平1492番地1	0948-42-3020	
自己評価作成日	平成25年05月12日	評価結果確定日	平成25年07月01日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事前の木々に囲まれ四季を感じるホームの敷地に、春はツクシ・ワラビ・ヨモギが沢山生え皆で採取し味わっています。「入居者第一を念頭に入れ」「ここに入居した良かった」と思われるよう日々の介護の中で、ゆとりと思いやる心を忘れず安心して生活出来るように支援しています。又職員の質の向上の為、外部研修会、勉強会等に参加出来るように努めています。重度が対応の看取りを実施することで「24時間対応」ご家族の皆様も安心されよりよいホームを職員一同目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然環境に恵まれた見晴らしの良い丘の上に、社員寮を改築した2ユニットのグループホーム「えださか」がある。「入居者第一」という理念の柱を、職員が常に意識し、利用者と長時間過ごす中で、家族のような関係を築き、家族から「ここに入居して良かった」という高い評価を得ている。利用者や職員は、季節の手づくり作品や、生花を室内に飾り、家庭的な雰囲気を出し、敷地で採れる土筆、わらび、大根や果物を調理し、同じテーブルで、料理と一緒に食べる様子は、微笑ましいものがある。勤続10年以上の職員が7名いて、利用者の気持ちや家族の心配事も理解し、一緒に悩み、一緒に笑う関係は、信頼の絆に包まれている。利用者の重度化が進み、全員で外出することが困難になっているが、職員の頑張りや、利用者の生きる力を引き出し、生きがいのある暮らしに繋がっている。

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5-27	093-582-0294	
訪問調査日	平成 25年06月19日		

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:25,26,27)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,21)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場 がある (参考項目:20,40)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	1. ほぼ毎日 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元 の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:38,39)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけて いる (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な く過ごしている (参考項目:32,33)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な 支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	次のステップに向けて期待したい内容
			実践状況	実践状況	
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭的な環境の中で、その人らしく又、人生の先輩として尊敬の念を忘れず、心にゆとりを持ち、忙しい時も平常心と思いやりの精神で入居者様のお世話をさせて頂いています。	「このホームで生活し、長生きして良かった」と心から思ってもらえるホームを目指す事を理念に掲げ、ミーティングで唱和している。開設10年を迎え、馴れ合いにならないように、初心に戻り、笑顔と言葉遣いに気を付け、職員は、ゆとりを持って利用者と関わり、一日一日を大切に、利用者の生きがいに繋がる支援に取り組んでいる。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	近隣の保育園児との交流、中学生の体験学習の受け入れ、ふれあいサロン、地域のボランティアの訪問等、積極的に交流を図っている。	地域のボランティアによる三味線、民謡の演奏、女性コーラスの訪問、保育園児、中学生、高校生、実習生の受け入れ等、利用者の重度化が進む中においても、積極的に地域との交流を図っている。また、地域の清掃活動や缶拾いや、公民館で行われるふれあいサロンに参加し、地域の一員として活動している。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	系列の有料老人施設で開催される年1回の秋祭りに参加し、地域の方と親しきなり、何時で立ち寄れる家庭的な雰囲気作りを行っている。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市職員の方や民生委員・婦人会・利用者の家族の方へ、日々の生活状況報告や参加された方のご意見等参考にしサービスの向上を行っている。	会議は2ヶ月毎に開催し、家族、民生委員、婦人会、市職員が出席し、ホームの実情や取り組み、課題等を報告し、参加委員からは、質問や要望、情報提供等出され、有意義な会議になっている。出された案件については、関係者で検討し、出来るだけホーム運営に反映させるように努力している。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	月1回のケアマネ連絡会「嘉麻市 のグループホーム」に参加し情報交換を行っている。	行政担当窓口に出向き、ホームの状況を報告し、困難事例等を相談し、連携を図っている。毎月、嘉麻市のグループホーム連絡会に出席し、地域包括支援センター職員も含め、情報交換し、協力体制を築いている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	講習会に参加し、またマニュアルを作成し全職員が理解、自覚しています。	身体拘束廃止マニュアルを整備し、外部、内部研修会で言葉の拘束を含め、身体拘束が利用者及ぼす影響について、職員一人ひとりが理解し、利用者の日々の暮らしが安全で穏やかなものになるよう、身体拘束をしない介護サービスの提供を目指している。畑仕事や草取り等が好きな利用者は、自由に外で過ごしてもらい、無理のないように支援している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「入居者第一」を念頭に入れ虐待は絶対してはならないことと、肝に銘じて介護を行っている。又、職員の態度、言葉使いに気を付けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度は利用されていないが、研修には参加して、他職員には定例会議において報告している。権利擁護に関する資料もそろえ、利用者や家族に必要な時、必要な情報があたえられるように努めている。	現在該当者は居ないが、職員は外部研修に参加し、ミーティング時に報告を兼ねた勉強会を行い、制度について周知を図っている。資料やパンフレットを用意し、利用者や家族が制度を必要とする時には、いつでも説明を行い、申請に必要な手続きの仕方や、関係機関に橋渡し出来る体制を整えている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約書、運営規定、重要事項説明書に基づいて、ご家族様が十分に理解、納得いただけるまで説明しています。		
10	7	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月に1回の運営推進会議を行っており、家族の方々と意見交換を行い、又面会時に意見や要望を聞いています。	意見箱を設置し、苦情相談窓口を掲示し、利用者や家族の意見や要望が出しやすい環境である。利用料の支払いが振り込みに変更になり、家族の足が遠のいた状況があるが、運営推進会議の後に家族会を開催し、バーベキューを行う等、家族に向けての働きかけを積極的に行ない、意見、要望を聴き取る努力をしている。また、ホーム便り「あすなる」を発行し、利用者の暮らしぶりを報告している。	
11	8	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	2ヶ月に1回職員の定例会議を行い意見や提案を聞き反映させている。	2ヶ月毎に開催する職員会議や毎日のミーティングで、職員の意見、要望、提案等を聞き取っている。職員間の関係も非常に良く、意見や気づきを言いやすい環境で、出された意見は出来る事から迅速に反映させる努力をしている。職員会議は、カンファレンスや勉強会も取り入れ、内容のある充実した会議として、職員のやる気や意識の向上に繋げている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回人事評価が行われている。又職員の誕生日の月に商品券、暑気払い、忘年会の催しがあり、又有給の買い上げや永年勤続者の商品券の授与等があり、意欲向上を図っている。		
13	9	人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員採用にあたっては、性別、年齢等の制限は設けていない。定年65歳以後は本人の働く意欲、元気があれば何時までも働くことが出来る配慮された職場である。	職員ロッカーや休憩室を用意し、利用者がゆっくりされる時間に職員も休憩をとっている。職員の介護技術の向上を目指し、外部研修参加や、資格取得に向けての応援体制があり、有給休暇の買い取りや永年勤続表彰等、職員がやる気や生きがいをもち、安心して働ける就労環境が整っている。また、職員の採用は、年齢や性別の制限はなく、65歳の定年以降も働けるよう配慮されている。	
14	10	人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	研修に参加し、参加した職員が伝達講習をして知識の共有を図っている。理念に「尊厳ある生活」をあげ、職員は人生の先輩である利用者に敬意を持った態度で接している。利用者の自己決定を大切にゆとりを持って対応している。	職員は人権研修会に参加し、ホーム内で報告を兼ねた勉強会を実施すると共に、職員全員がホーム理念に基づき、利用者が尊厳のある生活を送れるよう、思いやりの精神と人生の先輩への尊敬の念を忘れずに、利用者が安心して暮らせるための支援に向けて取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修計画を立てて、社会福祉協議会主催の介護講座等に勤務扱いで参加出来るようにしています。又職員の資格習得にも力をいれ、勤務のローテーションを配慮するなどの取り組みもしている。法人内研修、ホーム内の勉強会と学ぶ機会が多い。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入し、又嘉麻市のグループホーム連絡会に一月に一回参加し情報交換を行いサービス向上の取り組みを行っている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者と家族に話しを聞き好きなこと、困っていること、不安なこと等に耳を傾け、日々の生活変化に気づき対応を行っています。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に職員が、ご本人やご家族と面談、又は見学に来られた際、不安に思っている事、心配な事を傾聴し安心して生活出来るように、信頼関係作りに努めています。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が今必要としていること、又本人の出来ることを見極めて支援できるように努めています。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と共に生活する中で、色々と職員が教わることも多く、耳を傾け一人一人の思いを大切にしている。出来る事は必要以上に手を出さず、見守っている。		
21		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時家族とのふれあい時間を大切に、ゆっくと過ごして頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>誰もが気軽に立ち寄れる家庭的環境である為、利用者のお友達もよく訪ねて来られる又職員と馴染みの店で買い物している。</p>	<p>家庭的な温かい雰囲気のため、利用者の友人、知人、親戚の方等の来訪が多く、職員はお茶を出したり、静かに話ができる場所を提供して、何時でも来ていただけるよう支援している。また、ボランティアで来訪される方の中に、利用者と、馴染みの方がいらしゃったり、病院受診時や公民館活動の中で、知人に再会される事も多く、出来るだけこのような馴染みの関係が途切れないように支援している。</p>	
23		<p>利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>朝の体操、レクリエーションに利用者同士が楽しく参加出来るように支援している。</p>		
24		<p>関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>退去後も病院、或いは葬儀に向き家族からの相談等についても快く応じるよう職員一同努めています。</p>		
<p>、その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p>					
25	12	<p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々の生活の中で、利用者の言葉や表情から意向を汲み取るように努めている。又、利用者の希望、意向を聞き出来る限りの範囲で本人の希望、意向を叶えるように努めています。</p>	<p>職員は、暮らしの中で、利用者の意向や思いを把握し、家族と相談しながら、出来るだけ実現出来るように努力している。意向表出の困難な利用者には、職員が寄り添い、常に話しかけて、利用者の表情や仕草等から、何をしたいのか、その思いを感じとり、少しでも利用者の思いや意向に近づける努力をしている。また、利用者一人ひとりの「感動」を大切に介護サービスを目指している。</p>	
26		<p>これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>人それぞれの生活歴、生活環境が異なり日常の会話の中から、思い出に残る出来事等を楽しそうに話される、会話の中から状況を把握し、その方に合った支援を行っている。</p>		
27		<p>暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>毎日バイタルチェックを行い、週1回の訪問看護師による身体状況のチェック等によって、早期発見、早期受診を心掛けている。常に身体状況の把握に努めている。</p>		
28	13	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>入居時アセスメントにて、(出来る事、何がしたいか)状況を把握し、家族の意見や医療関係者の意見を参考に職員間で意見交換し、計画を作成しています</p>	<p>日常的に利用者の要望を聞き取り、家族には面会時に話を聞き、主治医の意見を参考にして、担当者会議で関係者が話し合い、利用者の、より良い暮らしを支える介護計画を、3ヶ月毎に作成している。また、介護計画に沿った流れの中で、利用者にとって無理があったり、状態が変化した時には、家族や関係者で検討し、その都度、介護計画の見直しを図っている。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践、変化を細かく介護記録に記入し、職員間での情報の共有をしている。3ヶ月毎介護計画の見直し評価を行っている。利用者に変化が見られた時には、職員間で検討し見直しをしている。家族にもその都度変更を伝えている。		
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	かかりつけ医への受診支援、週2回提携医による往診24時間対応の訪問看護、ご家族様が安心して頂けるよう取り組みを行っています。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者が、参加出来ない分職員が地域の掃除、缶拾いに参加している。		
32	14	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者家族の希望を聞いて、かかりつけ医院か提携医を選択して頂き定期受診、往診、週1回の訪問看護24時間対応で、適切な医療を受けられるよう支援している。	利用者や家族の希望を優先し、かかりつけ医の受診支援をしている。提携医による毎週2回の往診と、訪問看護を取り入れた24時間の医療連携体制が整っている。また、職員のチーム介護と、訪問看護の連携により、早期発見、早期治療に繋げ、利用者が安心して適切な医療を受けられるよう支援している。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護師に、状態の変化等を報告、相談し適切な指示を受け、早期発見、早期治療につとめています。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、頻りに病院に出向き担当医師や看護師と情報交換、相談を行っています。		
35	15	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	訪問看護24時間受け入れを行っており、家族には、「重度化対応、看取りに関する指針」の説明を行っています。事例を元に勉強会を行っています。	利用者の重度化が進む中で、「重度化対応、看取りに関する指針」に基づき、ホームで出来る終末期の介護について、利用者、家族に説明し、重度化になった際には、家族に再度意向を確認し、関係者で繰り返し話し合い、方針を共有して、利用者が1日でも長く馴染みの場所で暮らせるよう支援している。現在まで2名の方の看取りを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の救急救命の講習指導や、応急手当のシミュレーションを実施。緊急連絡体制を設置している。		
37	16	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施している。マニュアルを元に夜間想定の実践を行っている、ホームに隣接する系列会社の社宅の住民が訓練に参加する事はないが、災害時協力が得られる体制出来ている。又非常時に備え非常食、飲料水、毛布などの備蓄も整っている。	年2回、消防署の協力を得て避難訓練を実施し、2階の避難方法について消防署と話し合い、利用者をベランダに集めて鍵を閉め、居室のドアの識別シール(赤、青)を剥くという方法を確認し、繰り返し訓練を行い、慌てないよう徹底を図っている。夜間帯の避難に関しては、隣接の系列会社の社宅住民や近隣の職員との協力が得られる体制がある。災害時に備えて非常食、飲料水等の備蓄も玄関に用意している。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者とは会話する場合に大きい声、強い口調を避けるように心がけて接している。排泄の支援が必要な利用者には、失敗で傷つくことがないようにプライバシー保護を行うと共にさり気無く時間ごとに誘導している。	開設10年を迎え、長い関わりの中で、利用者と職員は、親しい馴染みの関係であるが、人生の先輩として敬う気持ちを常に持ち、利用者の「自己選択」「自己決定」を優先し、利用者のプライドや羞恥心に配慮した取り組みにより、利用者本位の暮らしとなるよう支援している。また、利用者の個人情報、鍵のかかるロッカーで保管し、職員の守秘義務については、管理者が常に職員と話し合い徹底が図られている。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	買い物に行きたい利用者には、その日の体調を見て職員と一緒に出掛けます。又、レクリエーションでは何がしたいか声掛けし、要望が出れば皆さんで行うようにしています。利用者より電話を掛けたい時は自由に掛けて頂いている。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望や意思を尊重し、出来ることを支援している。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に美容師に来て頂き、好みの髪型にカットして頂いている。又、衣類等は洋品店に連れて行き本人の好きな物を買って頂いている。		
42	18	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の物や、好みのものを取り入れた家庭的なメニューを作成している。利用者と職員が同じメニューで楽しく会話して食べている。食事後はテーブルを拭いたり、エプロン洗いを自ら進んでされる。	調理上手な職員が、その日の冷蔵庫の食材を見て、畑で採れる野菜と一緒に調理し、利用者一人ひとりの食事形態に配慮した美味しい食事を提供している。利用者と職員は同じテーブルに座り、楽しい会話の中での食事風景である。恵方巻やちらし寿司を皆で作ったり、ぶりの解体ショーの後、刺身を食べたり、食事を楽しむ事の出来る支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の利用者にあった形態、量を提供していません。摂取量、水分量をチェックしバランスよく摂れるようにしています。体調不調で食欲がない方には好きな物を食べやすく工夫する、補助食品等を提供しています。		
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に歯磨き、夕食後は毎日義歯洗浄液に浸しています。自分で出来ない方、不十分な方には声掛けや歯磨き介助をし、清潔に努めています。		
45	19	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の自尊心を傷つけないような言葉遣いで一人一人の排泄表を確認しトイレの声掛け、誘導、介助を行っています。また、プライバシー保護にも心配りをしています。	トイレでの排泄を基本とし、職員は利用者の排泄チェック表から一人ひとりの状態を把握し、自尊心に配慮した声掛けや、早めの誘導で、失敗の少ないトイレでの排泄支援に取り組んでいる。また、いつまでもトイレで、排泄が出来るように、下肢筋力を鍛えるために、理学療法士から職員が指導を受け、毎日のリハビリ、滑車、体操、足の運動、立位、廊下歩行を実施している。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事は食物繊維の多いものを取り入れています。又、1日の水分量を記入し、水分確保に努めています。個々に応じたラジオ体操、散歩、廊下歩行等の運動を行っています。排泄表を確認し排便(-)が続く時は、主治医に相談し緩下剤を使用しています。		
47	20	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者より入浴日を決めて欲しいとの希望で週3回の入浴日を決めている。又、一人一人に合わせて入浴を楽しんで頂いている。温度調節、浴室の環境整備に配慮し安全、安心、安楽に入浴を提供しています。	入浴は、利用者の希望を聴き、基本的に週3回としているが、利用者の健康状態やその日の気分に合わせて、柔軟に対応している。利用者一人ひとりに合わせた湯温や脱衣場の温度調整等、きめ細かい対応で、心地よい入浴が出来るよう工夫している。また、入浴嫌いの利用者には、職員が交代で声をかけ、無理強いせず、清拭等で対応し、利用者の意思を尊重した入浴の支援をしている。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自立の方は自由に余暇時間を過ごされている。介助が必要な方は本人の訴え時、声掛けにて休息されています。夜間時、安眠のため、主治医の指示の元眠剤を服用し休まれる方もあります。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	1人1人の服用される薬の目的や副作用、用法用量について理解しており、薬の変更があったときは、介護日誌、申し送り、職員より伝達し確認する。又、症状の経過観察も日々行っています。服用は誤薬がないように、日にち、氏名を確認の上服用していただきます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の生活歴、趣味、希望を把握し無理のない範囲で、菜園の野菜作り、食事の準備など利用者と職員が一緒にしている。又ボランティアの方とコーラスや三味線民謡を楽しんでいる。保育園児との交流会に出掛け気分転換を図っている		
51	2 1	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常の買い物は職員と一緒に出掛けている、季節の花見(桜・つつじ・藤)等は、ホームの車で出掛け、昼食もお弁当にしたり、食堂で食べたりして、楽しんでいる。	気分転換を兼ねて、桜、つつじ、藤、紫陽花等の季節毎のお花見やバスハイクで若宮の海に出かける等、利用者の重度化が進む中、職員は頑張って利用者の生きがい、感動に繋がる外出の支援を行っている。また、買い出しと一緒に出掛けたり、敷地内の畑の手入れ、玄関前にテーブルを出してお花見しながら弁当を食べる等、重度化が進んでも少しでも外気に触れ、季節を感じてもらえるよう支援している。	
52		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理の出来る方は、買い物時所持して頂いて好きな物を買ってもらっている。		
53		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者より、電話を掛けたいと要望があれば、何時でも話が出来るように支援しています。		
54	2 2	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用のテーブル・洗面所・玄関に職員手作りの季節の花や鉢植えを飾り季節を感じて頂いている。	社員寮を改築した2階建ての建物を、利用者と職員が工夫しながら折り紙を使って季節の飾りつけや、毎年出品している貼り絵の作品、楽しそうな行事の写真等を掲示し、楽しく温かい家庭的な雰囲気上手に演出している。室内には季節の花が飾られ、利用者が季節を感じながら過ごせるよう工夫している。また、広い敷地の中の畑で育つ野菜の成長は、利用者の大きな楽しみとなっている。	
55		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	Dルームで、他入居者の方とお喋りしたり、テレビを観たりして、ゆっくりしたい時は自室で自由に過ごして頂いています。		
56	2 3	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的で「自分の家」と感じ、くつろげるように使い慣れた馴染みの家具を置かれ、家族の写真や花を飾られ居心地よく生活できるように配慮しています。	居室は畳敷きで広く、利用者の使い慣れた家具や仏壇、小物、家族の写真、大切な物を家族と相談しながらレイアウトして、まるで自宅のような、それぞれの個性が生かされた雰囲気の部屋になっている。また、家族の面会時に会話の糸口にもなるように、行事や外出時の写真を貼る等工夫している。	
57		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自力で移動しやすいうように、バリアフリーになっており洗面所・トイレ・浴室が分かるように表示しています。		